





前言

昭和三十八年三月、防衛大学を卒業して九州は久留米の陸上自衛隊幹部候補生学校で一年間ミッチリと歩兵魂を叩き込まれ職種普通科を選び、最初の任地である北海道名寄へ向かった。

一つのシヨック

着任草々の部外への挨拶廻りをした際に私は一つのシヨックを受けた。第一のシヨックは、部下から「団長これで挨拶廻りは終わりです」と報告を受け

た。この間・師団・方面・陸幕で幕僚勤務、及び防衛大学、幹部学校教官を務めたが何故か出身地の愛知県で勤務する機会は無かった。

それぞれの勤務地で素晴らしい上司、先輩、同僚、部下、後輩に出会えて感謝の自衛官人生であったが、とりわけ最後の勤務地沖縄では私の最も信頼する防大同期生の佐藤守南混成司令と一緒勤務できた事は幸運であり宝物のように思っています。

第一混成団へ着任

平成七年七月一日、希望に胸ふくらませ沖縄に入り、まず最初に摩文仁の丘に妻と共に参拝、戦没者の冥福を祈った。

着任にあたり統率方針として「精強さのあくなき追及」と「地域との一体感」を示した。「精強さのあくなき追及」では第一混成団は不発弾処理と緊急患者空輸の練度は高いが訓練環境は劣悪であり、あらゆる場を活用して野生的実戦的訓練に努める必要性を強調した。また「地域との一体感」では、沖縄は先の大戦に於いて過酷な体験を持っており、縁あってこの地で勤務する者としては、先、県民感情を理解することが大切であり、県民の心を心として日々努力したい旨を申し述べた。

から言ったじゃないですか…止めましょう」と意見が具申して来た。勿論、挨拶回りは続行したが相手にはかなり非を求めただけでなく、自衛隊側にも反省すべき事もあるのでは、と考えさせられた。

私は沖縄勤務では意識的に革新系首長等と接触してきました。こちらがアプローチしない限り相手はなかなか口を開きませんので。大田知事を始め那覇市長、沖縄市長、琉球新報社長、沖縄タイムズ社長、沖縄テレビ社長等々、それぞれ素晴らしい持ち味の人々で教えられる事が沢山あり、誠に「直」についての県民投票

反対運動の中心となっていくが、彼等には生活がかたっていない状況下で行動している事を忘れては実情が見えて来ません。

平成七年九月、米海兵隊員少女暴行事件を契機として、反米、反軍闘争が一気に盛り上がりを見せ、戦後五十年目の節目という事もあり連日、新聞、テレビ等は異常な程この事件を報道した。

偏向する報道

昭和四十七年五月十五日沖縄が復帰して以来、陸海空自衛隊が配置された。第一混成団は不発弾処理隊を以て不発弾処理を行い二万三千八百一回出動、約千三百二十五トンの不発弾を処理した。

沖縄勤務回想



元陸将補 村田 秀 信

意を持って対応すれば、通ずるものがあると確信したものです。

反戦一坪地主

最大のネックは、沖縄は農地改革がなされていないが、大地主が存在し、持つ者と持たざる者の格差が大きく富の分配が不公平になっている事です。

軍用地主、三万二千名の内二万九千一百人(総面積の九九、八%)が基地提供に賛成して、二千九百名(このうち一坪反戦地主が二千八百名で、地主らしき人々は約百名)が反対しています。一坪反戦地主が

出で新聞、テレビ等の報道となった。その反響は部内外を含め色々あったが、とりわけ佐藤南混成司令とローリングス米海兵隊司令官から賜った激励の言葉は大変に有難く心に深く残っている。

嵐の中に殉職した緊急患者空輸隊員

八月に那覇市内のある会合で私は「県民の意思を問うことについては何等問題は無いが、国家安全保障の基本となるような内容はテーマとして馴染まないし、既に橋本総理とクリントン大統領が合意しており、更に県民の代表である県議会

八月に那覇市内のある会合で私は「県民の意思を問うことについては何等問題は無いが、国家安全保障の基本となるような内容はテーマとして馴染まないし、既に橋本総理とクリントン大統領が合意しており、更に県民の代表である県議会

八月に那覇市内のある会合で私は「県民の意思を問うことについては何等問題は無いが、国家安全保障の基本となるような内容はテーマとして馴染まないし、既に橋本総理とクリントン大統領が合意しており、更に県民の代表である県議会

離島防災訓練

私は阪神淡路大震災の発生から半年後の七月に沖縄勤務を命ぜられ着任した訳ですが大小五十の有人島からなる沖縄島の地理的特性から災害派遣に際しては、救助活動を極めて困難なものにする。この為、災害派遣を任務の一つとする第一混成団としては昭和八年(一七七一年、死者一万二千名)の大津波の歴史的教育もあり常日頃から防災訓練を推進し、いざとなつ時に済々とした救助活動を可能にしておく必要がある、と考へた。その為、着任以来大田知事に対して三年か五年に一回は沖縄本島のみの防災訓練では無く、離島の防災訓練を実施すべきであると訴えていたが、反応は一つであった。やむなく私が直接、石垣島の大濱市長、宮古島の伊志嶺平良市長に対し、離島防災訓練の必要性を訴えた。出れば、沖縄本島から一番離れた石垣島で実施したかったが市側の反応が出てこなかった。そこで平良市長との調整を推進し平成八年九月実施の運びとなった。

私も早速電話で伊志嶺市長に対して理由を尋ねた。歯切れの悪い返事を聞く中で、県から横槍が入り防災訓練が実施出来なくなった状況を察知した。そこで自衛隊単独で防災展示訓練を実施して宮古の人達に、その能力を見ていただいた、と伝えた。すると暫くしてから訓練場所の提供を断って来た。

知事の決断

この知事の決断によって離島防災訓練が成功裡に終了すると、当初の計画を中止に追い込んだマスコミ報道は八重山日報以外は沈黙し報道しなかった。いずれにしても私の退官後に念願

の沖縄県総合防災訓練が初めて石垣島で実施された事は喜ばしい。

結語

自衛官生活三十四年四月、思う存分職務に精励する事が出来た。陸上自衛隊を選んだことが結果として民生安定協力等と一緒に歩んでくれた妻、親子の地域の方々と直接する事になり素晴らしい人々との出会いに恵まれることに

榛本 光人

〒530-0044 大阪市北区東天満 二丁目五番三号 電話 〇六―六三三―五八一七二三

関西防衛を支える会 常任理事

石田 吉末

〒583-0991 大阪府南河内郡太子町春日 九八番地七二号 電話(〇七二)九八二八〇七番 PHS〇七〇一五〇三四一五五八四

ビジネス イン ナンバ

〒556-0011 大阪市浪速区難波中一―一―二 TEL(〇六)六六四一七七七 FAX(〇六)六六四一七七一〇

大阪遠藤青汁普及会

〒553-0006 大阪市福島区吉野四―二―七 TEL(〇六)六四六二二二四 FAX(〇六)六四六二二五八二四

